

木材製品の性能を高める

研究開発ロードマップ



木材供給量: 2300 万m³
(森林・林業基本計画) 2015年目標

木材供給量: 2900 万m³
(森林・林業基本計画) 2025年目標

用途拡大・代替促進

多種多様化した国産材原木への対応

選別・加工・廃棄の省エネルギー化
一貫省力化生産システムの開発

人工乾燥技術の確立

新材料開発・代替品開発

- 木材の改質・他材料とのハイブリッド化による多機能化技術

化石資源由来の材料を代替できる
高強度・不燃・高耐久性材料の開発

環境負荷の小さい
様々な木材製品の出現

木材製品への
代替による
環境負荷の
大幅低減

長寿命化

200年住宅ビジョン
(自民党政務調査会)

耐震・耐火・高耐久化・ 補修・保全技術の開発

- 劣化診断・モニタリング技術
- 高強度部材の開発

中層木質構造用部材の開発

地震に対して安全で、快適に暮らせる
長寿命木質構造の実現

居住環境の向上と 高齢化社会への対応

- ユニバーサルデザインの導入

快適性空間設計法の確立

快適性評価法の開発

高層木質構造の実現

木材の循環利用を
中核とした
安全で快適な
住環境の創成

リサイクル・リユース

建設発生木材の再資源化率 95%
(資源リサイクル法)

易リサイクル性付与

- 残廃材の自動選別・分解技術
- 解体性接着剤の開発

易リサイクル性木質材料の開発

易リユース性付与

- 新しい接合方法の開発

リユースに適した構法の開発

環境負荷の評価

- LCAなどによる木材製品利用の評価技術

評価手法の確立

木材製品の完全リサイクル実現